

(仮訳)

2020年6月15日

AIに関するグローバル・パートナーシップの設立メンバーによる共同ステートメント

我々、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、インド、イタリア、日本、メキシコ、ニュージーランド、韓国、シンガポール、スロベニア、イギリス、アメリカ、欧州連合¹は、ここに合同で、AIに関するグローバル・パートナーシップ（GPAI、ジーパイ）を設立する。設立メンバーとして、我々は、OECDによるAI勧告に詳述されているように、人権、基本的自由、そして我々が共有する民主主義の価値観に調和した形で、責任ある、人間を中心としたAIの開発と利用を支持する。そのため、我々は他の関心を有する国やパートナーとの協働を期待する。

GPAIは、AIの責任ある開発と利用を導く、国際的で多様な関係者が参画する取組みであり、人権、包摂性、多様性、イノベーション、そして経済発展を土台とするものである。その目指すものを達成するために、この取組みでは、AIに関する重要事項について、最先端の研究と実装を支援することにより、AIに関する理論と実践の隔たりに橋渡しをすることを目指している。

パートナーや国際機関との協力により、GPAIは、以下の4テーマの作業部会とともに作業を進める一流の専門家、産業界、市民団体、政府、そして学术界から呼び集める。

- 1) 責任あるAI
- 2) データガバナンス
- 3) 仕事の未来
- 4) イノベーションと商業化

短期的な重要事項として、GPAIの専門家は、新型コロナウイルス感染症へのより良い対応とそこからの回復にAIをいかに活用できるかについても、検討する。

GPAIは、パリにあるOECDによる事務局²と、モントリオール（カナダ）とパリ（フランス）に所在する2つの専門センターによって支援される。OECDとの連携は、GPAIの科学技術的な作業と、責任あるAIを目指した政策のために基礎となる根拠を強化する、OECDによってもたらされるAIに関する政策の国際的なリーダーシップとの間に、強い相乗効果を発揮する。専門センターは、様々な分野や領域から集まった作業部会の専門家によって実施され、あるいは評価される具体的なプロジェクトの管理と研究に対する支援を提供する。専門センターはさらに、GPAIの多様な参加者からなる専門部会の年次総会を計画する。同年次総会の第一回会合は、2020年12月にカナダが主催する予定である。

¹ 正式な加入手続きが進行中である。

² OECDにGPAIの事務局を設置する手続きは、現在、その最終段階にある。